2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[市立札幌大通高等学校] 担当教諭名[杉山譲司・天野由美香]（異文化理解講座 1-4 年次 23 名）
相手国・地域[エジプト]
海外学校名[El-Shaheed Ibrahim El-Refaey Governmental Distinguished Language School]
担当教諭名[Akef M. Shehab / Dalia M. Mahmoud]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教　科	単　元　名	時間数
アートマイルに関連した実施教科・時間数	外国語科	異文化理解	28

■作品に込めた想いについて教えてください。

題（テーマ）	The Images of Peace
メッセージ （相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ）	「平和」ということばを聞いたときイメージするものは何か。日本とエジプトでの違い、同じ点を共有したい。

※3月20日現在、相手校側に届いていないため未完成

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成　果	課　題
本プロジェクトを通して異文化理解の講座で学んだことを深めるよう努め、特に、壁画の原画作成のために異文化理解の講座で学んだことを振り返り、それぞれの「平和」のイメージを講座内で共有できたことが成果の一つである。	相手校からのリアクションの少なさ、EMS での郵送において、絵の具の成分により税関で留め置かれたまま数ヶ月を要していること、そのような事態での対処のあり方。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
1. JICA の出前講座でエジプトの文化、風習について理解を深めた。 2. 異なる文化の国、地域との交流がこちらの常識では進まないこと自体がよい異文化理解の学びになった。	左記2に関連して、いまだ壁画が届かない点について、生徒とともに待つこととなったが、これまでアジア地域の国との交流ではなかったことであるので、人や物の行き来についてより慎重である国、地域の実情について思いをいたらせることとなった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	8月 9月	自己紹介及び学校、札幌紹介をビデオレターの形式で送付。	相手を意識して質問を織り交ぜながらスピーチした。	異文化理解
共有 テーマ学習	10月	平和について各自がイメージするものをコラージュ作品にして、講座内で共有。	画像を利用することでお互いの平和に対しての考えが理解しやすかった。	異文化理解
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	上記コラージュ作品を元にしながら、全員で意見を出し合いながら原画を作成。	エジプト側の平和をイメージした作品を見ることを期待したが、反応を得られず残念であった。	異文化理解
創造 壁画制作	12月	午前、午後へとリレー形式で1枚の作品を仕上げた。	1枚の絵になっていくことに満足感を得たようである。	異文化理解
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	プレゼンテーション大会(3月)に完成した壁画を全校生徒に披露することができなかったが、講座で学んだことを報告した。	相手校から平和についてメッセージビデオが届き、プレゼンテーション大会で全校生徒と共有することができたことに安堵していた。	異文化理解

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	相手に伝えようとすることで、自文化への理解がより深まっていた。
異文化を理解する力	4	壁画郵送のトラブルを文化、地域情勢の違いと前向きにとらえることができた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	インターネットをしっかりと活用していた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	相手と理解し合いたいという思いから、足りない技能をなんとか補う努力をしていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	※相手校との交流が質、量ともに不足しているため、この力に対する判断ができません。
主体的に考え行動する力	3	※相手校との交流が質、量ともに不足しているため、この力に対する判断ができません。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	3	講座内でのビデオ作成、壁画作成ではよく協力できたが、相手校の生徒との協働の場面が持てなかった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	講座内で平和のイメージを共有する際にお互いの考えを伝え合うことが出来た。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	※作品が完成した際(可能でも来年度になるであろうが)に在校している生徒には作品を鑑賞しての感想を聞いてみたい。